

「葛飾区読書感想文コンクール」を実施しました

葛飾区では、児童・生徒の読書活動を推進するために「葛飾区読書感想文コンクール」を実施しています。

今年度は、小学生1万5千323点、中学生4千756点の応募があり、小学生18人、中学生10人の作品が入賞しました。各部門の最優秀賞・優秀賞・佳作入賞者は次のとおりです。(敬称略)

■小学校低学年の部

最優秀賞

高橋 暖(梅田小2年)

優秀賞

永山 真衣(鎌倉小2年)

久田 真羽(飯塚小1年)

佳作

栗山 美音(小松南小1年)

鈴木 智博(柴又小2年)

沼田 悠輔(原田小1年)

■小学校中学年の部

最優秀賞

鷺 利人(柴又小4年)

優秀賞

石山 想汰(奥戸小3年)

塩崎 春香(鎌倉小4年)

佳作

岡崎 春子(梅田小3年)

大吉 希里乃(中之台小3年)

新保 美幸(よつぎ小4年)

■小学校高学年の部

最優秀賞

徳永 怜杏奈(葛飾小5年)

優秀賞

小出 真琴(柴又小6年)

曾我 七海(西亀有小6年)

佳作

吉村 友那(葛飾小6年)

宮崎 未羽(末広小5年)

大橋 明莉(白鳥小5年)

■中学校の部

最優秀賞

渡邊 拓真(四ツ木中3年)

優秀賞

五十嵐 瑞月(本田中2年)

大角 奏歩(水元中3年)

鈴木 春南(奥戸中3年)

雨宮 愛紗(葛美中3年)

佳作

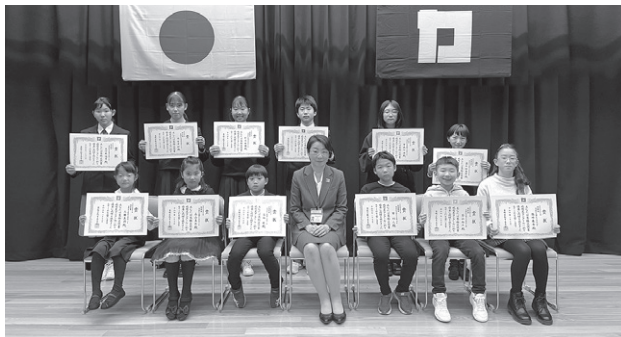
辻井 真央(奥戸中1年)

岡崎 陽太郎(青葉中2年)

山尾 咲(青葉中3年)

上田 真由(東金町中2年)

橋本 未来(新小岩中1年)



心に駄目

書名「老人と海」(新潮社)

著者 ヘミングウェイ

訳 高見 浩

四ツ木中学校 3年 渡邊 拓真

ただただ、老人の諦めない心に圧倒されてしまった。助けを呼ぶことの出来ないメキシコの海で、一人巨大なカジキマグロと闘い、体の衰えとも戦い抜いた老人が、格好いと思っただ。

老人が、たった二人で巨大カジキと四日間、の死闘を繰り広げるも、漁の帰りは、勝ち獲ったカジキをサメに食い尽くされてしまふ。読み手の僕の疲労感はおかまひなしに、身も心もボロボロのはずの老人は闘いの後、ライオンの夢を見る。なんとも満足気な終わり方だ。

読み終えて、ふと、部屋に貼っている柔道の師範の格言が目に入った。

「もつ駄目だと言わずに、まだ駄目だと念ひ聞かせる。」

僕が道場に入門したときに、贈られた言葉である。師範は五十年も道場を開いていて、三百人以上の門下生がいる。偉大な八十三歳の師範である。僕が柔道を始めたときからお世話になっており、現在も父と週に二回指導していただいている。体の衰えを全く感じさせない技のキレで、体の小さな僕も、高校生と互角に戦えるようになってきたが、師範を投げたことは一度もない。

師範はどんな相手にも真剣で、高校生とも、僕とも、必ず全力で相手をしてくれる。僕と本気で乱取りをしてくれて、ケガで全

力が出せないときは技を教えてください。そんな師範が、この「老人と海」に登場する老人と、人物像がぴったり合っていると感じた。師範は、普段は「じいちゃん」だが、練習になると、やる気に満ち溢れている。老人も、村ではただの「じいじ」だが、海に出ると、勇ましい姿に変わるのだ。自分が自信をもつことが出来ることには、とことん全力で取り組む、この姿が、師範と老人が似ていると感じた二つの要因である。また、老人はカジキとの闘いを、心から楽しんでた。師範も、乱取りで僕を投げると、嬉しそうに「ンマリし、逆に僕に技を防がれると、とても悔しそうな顔をする。

真剣に物事に接するからこそ、心から楽しみ、喜び、悔しむことが出来るのだろう。二人の「じいじ」は、「全力」の達人である。

老人は、カジキとの勝負には勝ち、サメとの闘いには負けてボロボロになった。しかし、老人は「ライオンの夢」を見て、誇らしく思っていた。更に、次こそはサメに勝つてやろうと、舟に武器を載せる計画を始めていた。本を読み終えた僕は、苦勞して捕獲したカジキをサメに食われて悲しいはずなのに、なぜこんなにも前向きな気持ちでいられるのかわからなくなった。老人は、この「強さ」をどうやって手に入れたのか、不思議でならなかった。

柔道の試合で勝つことも負けることもあったが、本当に「全力」で戦っていたのか、「じいじ」の姿を見て疑問に思えてきた。勝ったときは嬉しいが、負けたときは、体の小ささを理由にして、諦めることが多くなつた。ふがいない試合結果でも、師範はいつでも、すぐに悪かった点と改善案を教えてください。体格差があっても、技の創意工夫でなん